SCENE 1

ひょうご健康的な食環境づくりプロジェクト

いつもの食事から無理なく健康づくりを

詳しくはこちら

県では、食塩の取り過ぎや高齢者の低栄養などの健康・栄養課題に産学官が協力して取り組み、県民の健康寿命の延伸と健康格差の改善を目指す「ひょうご健康的な食環境づくりプロジェクト（愛称：BE WELL）」を展開しています。9月6日には、参画事業者など8社や尼崎市と共に、「BE WELL×尼メシプロジェクト」を尼崎市内で開催。手軽に栄養が取れる商品やオリジナル減塩レシピの紹介、健康測定などを通して、食生活を見直すきっかけを提供しました。参加者からは「お菓子を栄養バランスの取れたものに替えてみようと思う」「健康診断を受けて終わりだったけれど、日頃から健康を意識したい」などの声がありました。



続けやすいのが健康づくりのポイント。インスタントスープに蒸し大豆を加えるだけで、減塩と栄養バランスの改善に。

SCENE 2

ほじょ犬普及啓発協力店

「補助犬と一緒に」をもっと当たり前に

詳しくはこちら

飲食店などでは法律により補助犬同伴者の受け入れが義務付けられていますが、理解が進んでいないのが現状です。そこで県では、補助犬ユーザーが安心して利用でき、普及啓発に協力する店舗を募集し、情報を発信。現在「ほじょ犬普及啓発協力店」として15店舗が参加しています。その一つ、神戸市中央区の「にしむら珈琲店」で意見交換会を開催し、㈱にしむらコーヒーサービス代表取締役社長の吉谷修作さん、盲導犬ユーザーの2人、齋藤元彦知事が出席。盲導犬ユーザーが飲食店を利用時に困ることなどについて意見を交わし、「さまざまな場面で困られているのを知り、少し理解しておくだけでも対応が変わると感じました。研修で従業員に共有します」と吉谷さん。齋藤知事も「補助犬ユーザーが飲食店などを普通に利用できるような環境づくりに引き続き取り組んでいきたい」と話しました。



五国の現場から

SCENES OF GOKOKU



平時こそ危機感を持ち、備える

兵庫県職員のまなざし 職員インタビュー vol.3

県災害対策課

訓練担当　松浦 祥介

詳しくはこちら

いざというときに、自ら考え、すぐ動けるように。実際の災害を想定した訓練を重ねるとともに、被災地へいち早く駆け付け、支援する。松浦祥介主任は、阪神・淡路大震災の経験を受け継ぎながら、平時から「もしも」に備えています。

大災害が起きたときに県職員が迅速・的確に行動できるよう、県では全庁を挙げた災害対策訓練を実施しています。その担当者として、各職員に危機感を持って主体的に動いてもらうため実際の災害に近い状況をつくることを意識しています。災害時は、必要な情報がそろっているわけではありません。自ら情報を取りに行き、その場で考え、判断する。実際の災害時に近い経験を積んでほしいという思いで訓練を企画しています。

県外で大規模災害が発生したら現地にいち早く駆け付け、支援するのは兵庫県の使命だと考えています。阪神・淡路大震災で全国から支援を受けたからこそ、今度は支える側としてすぐに動く。その姿勢は、先輩職員から受け継がれてきました。私は石川県珠洲市や熊本県宇城市で被災自治体の業務を支える後方支援に携わりました。被災地では、行政の仕事が止まると住民支援も止まってしまいます。支援を確実に進めることが被災者の暮らしを守ることにつながると実感しました。

災害対策課は24時間365日災害に対応できる体制を敷いており、県内に警報が出たら真夜中でも情報収集し、状況に合わせて対応しています。災害はいつ起こるか分からない。だから、何も起きていないときにどこまで備えられるかだと思っています。

みんなの声　財政状況の説明で不安が少しなくなりましたが、今後も関心を持って見ていきたいと思います。（多可町・藤井さん）